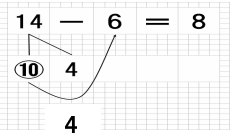
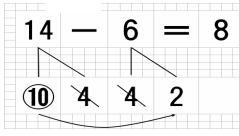


言語活動の充実に関する実践事例

学校名 (熊野町立熊野第一小学校)

- ① 教科等 算数科 ② 学年 第1学年
- ③ 単元名 ひきざん
- ④ 本時の目標 14-6のいろいろな計算の仕方について考えることができる。
- ⑤ 学習の流れ (5時間目/全12時間) ※本時は「14-6」の2/2 (1時間目で自力解決している)

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 (評価方法)
<p>1 問題を想起する。</p> <p>○ 昨日の課題を思い出す。</p> <p>14-6のけいさんのしかたをかんがえよう。</p> <p>2 本時の学習課題を知る。</p> <p>14-6のけいさんのしかたをみんなでかんがえよう。</p>	<p>・自分のノートで、前時のめあてや自分の考えを思い出させる。</p> <p>解決のカギ</p> <p>ブロック</p> <p>ず</p> <p>⑩(10のまとまり)</p>	
<p>3 14-6の計算の仕方について話し合う。</p> <p>(1) 発表して理解し合う。</p> <p>① </p> <p>② </p> <p>(2) 二つの考え方を比べ、計算の仕方の簡単さに気付く。</p> <p>・どちらにも⑩がでてきます。</p> <p>・14-6の計算はどちらでやっても簡単です。</p>	<p>・表現力を高めたり理解を深めたりするために、複数の児童に説明させる。</p> <p>・さらに理解を深めるために、発表を聞いた後、二通りの計算の仕方をブロック操作しながらアトークをさせる。</p> <p>・つまづいている児童には、板書を参考にしよう助言する。</p> <p>・繰り返りのあるたし算で見付けたひみつを想起させ、ひき算ではどうだろうかと投げかける。</p>	<p>・「ばら」、「⑩(10のまとまり)」という算数の用語を使って、ブロックを操作しながら、順序よく説明している。〔数学的な考え方〕(発言・ノート)</p>
<p>4 たしかめ問題をする。</p> <p>○ 15-7の計算をする。</p> <p>5 本時の学習を振り返る。</p> <p>○ 本時の学習でわかったことや友だちの考えのよさ、これからの学習に使えるようなことをまとめる。</p>	<p>・二通りの計算の仕方の違いを意識させるために、図と式を用いて表現させる。</p> <p>・「どちらもかんたん」であることを実感させるために、まず自分のやってみたい方法でやらせ、次にもう一つの方法にチャレンジさせる。</p> <p>・本時で使い、これからも使えるような「解決のカギ」を全体で確認し、次時の予告をする。</p>	
<p>ひきざんは⑩をばらしてけいさんする。「⑩からまとめてひく」「ばらと⑩からひく」のどちらでもかんたんなばあいがある。</p>		

言語活動の充実

設定した言語活動を通して育てたい力

- 既習のひき算の計算の仕方を基に、くり下がりのあるひき算の仕方を考え、「ばら」「⑩(10のまとまり)」という算数の用語を用いて説明することができる。

言語活動の充実のための指導の工夫

- 板書した式や、計算式の意味を書いたものに、順序を表す接続詞のカードを貼ることで、発表の支援をする。
- 計算の仕方について、ペアトークしたり、一人の児童の考えを別の児童が再度説明したりすることで、理解の定着を図る。